慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	大衆薬市場参入メーカーの業績決定要因の分析
Sub Title	
Author	久保晴紀(Kubo, Haruki) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第994号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0994

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.994

学生氏名　久保　晴紀
（久光製薬株式会社）

主査　古川　公成
副査　柴田　典男
嶋口　充輝

所属　古川　公成　研究室

大衆薬市場参入メーカーの業績決定要因の分析

本研究は、大衆薬市場に参入しているメーカーの業績決定要因の分析を目的としている。

まず、戦後の国内の医薬品市場がどのような変遷をたどったか、そのことにより、大衆薬市場の環境はどのように変化したかを、1)～1960年、2)1961～1980、3) 1981 ～の３つの年代に区切り明らかにした。

その結果、同市場に参入している企業にとって、非常に大きな転換点となる環境の変化は、薬害事件及び、国民皆保険施行の前後と、医療費抑制策の後の２つがあるということを改めて確認した。

特に前者は、その後の企業を新薬系、家庭薬系と呼ばれる、性格の異なった企業群に振り分けた、今なお、少なからず各社の行動に影響を与えている。また、後者は、新薬系メーカーの大衆薬市場への再参入を招き、同市場の競争環境を大きく変化させることとなった。

この転換点に、各企業はどのように対応したかについてを、武田薬品と、大正製薬の新薬、家庭薬のトップ企業の行動を分析することによってまとめたうえで、医薬品企業において中小規模の、参天製薬、ロート製薬、久光製薬、わかもと製薬の４社の事例研究を行ない、各メーカーの環境への対応をまとめた。

その結果、環境の変化は各メーカーにとって、同一の影響を与えないため、各社の対応は、同じにならないが、その時期、業績好調な企業は類似した行動をとっており、また、不振に陥った企業は明らかに違った行動をとっていた。その行動を導いた要因を一言にまとめると「状況に応じた効率的な経営資源の投下の継続」となり、これをもって当研究の結論とした。